

生活困窮者の生活支援

2012. 6. 6

さわやか福祉財団 理事長

堀田 力

1. 支援のあり方

ホームレス、生活保護受給者だけでなく、障がい者、高齢者、失業者などを統合して、その**能力を社会に生かす**という視点からの支援の仕組みが必要

2. 支援のめざす理念

「ポスト工業社会」では、これまで産業の中心となった機械や設備に替わり、「人間の能力」そのものが経済社会の原動力になり、企業や社会の成長・発展は、労働者の能力がいかに存分に発揮されるかにかかっている。

特に、人間の能力は、極めて多彩である。その各人の資質・才能が多彩なまま成長・開花し、社会貢献を通じたその能力の発揮により、付加価値の創出と調和ある経済社会の発展が実現される。働く人々の多彩な能力の発揮による経済社会の好循環を作り出すことは、新たな時代の要請である。

これまで、資本や組織に従属してきた働く人々が、組織の強い拘束から解放され、「知恵」、「感性」、「思いやり」といった資質を活かし、創造性を遺憾なく発揮させる社会は、歴史上も画期的なものである。こうした社会を「人間開花社会」と呼び、それを社会の目標とするとともに、その実現へ向け、パラダイムの転換を図っていくことが求められる。

(平成16年6月「働く者の生活と社会のあり方に関する懇談会」報告書「転換期の社会と働く者の生活ー『人間開花社会』の実現に向けてー」から引用)

3. 支援者

公助に委ねるのではなく、自助をになう企業の自発的努力のほか、共助をになうNPO、地域団体等によるきめ細かい支援が必要

4. NPO、地域団体等による支援

(1) 社会参加支援

- ・ベンチャー起業支援
 - 訓練（ITその他）
 - 基盤整備（非営利金融法人その他）

- ・雇用・労働
 - 働く場の開拓
 - NPO等が自ら雇用

- ・共助の活動参加
 - ・各種地域支え合いの活動
 - ・地域協議会
 - ・地域NPO
 - ・地域通貨（*）
 - ・見守り活動（孤立防止）
 - ・公共活動
 - ・子どもの活動支援

* 【地域通貨の社会的目的】

日本の地域通貨は、生活者一般の相互扶助を目的とするものが多いが、アメリカの地域通貨のうち、タイム・ダラーは、ホームレスを含む貧困者の自立を主な目的としている（もう1つのタイプであるイサカ・アワーは、地域経済の活性化を目的としている）。

Edgar. S. Cahn ; No More Throw-Away People ;
ヘロン久保田雅子他訳「この世の中に役に立たない人はいない」（創風社出版 2002）

・居場所

(参照) さわやか福祉財団「住民参加の基盤をつくっていくために」

(例) 風まちサロン (東京都新宿区 設立2004年)

新部聖子さん (NPOスーパの会) 談

「私たちが活動する地域は、独居の高齢者、日雇いの方や外国籍の方など、孤立して暮らしている方が多いです。地域には、屋根があつて暮らしていても、地域で孤立している、『ホームレス状態』の方がいます。ホームレス状態の人を地域からなくす、ホームレスを出さないような地域づくりがテーマです。そこで地域でつながれる場所をつくらうと『風まちサロン』という構想が出来上がりました。」
(さわやか福祉財団発行情報誌「さあ、言おう」2010年1月号から引用)

(2) 要支援者へのアウトリーチ、支援の仕組みへのつなぎ

- ホームレス
- 自殺企図者
- 地域内孤立者・要支援者
- 地域のかげこみ寺